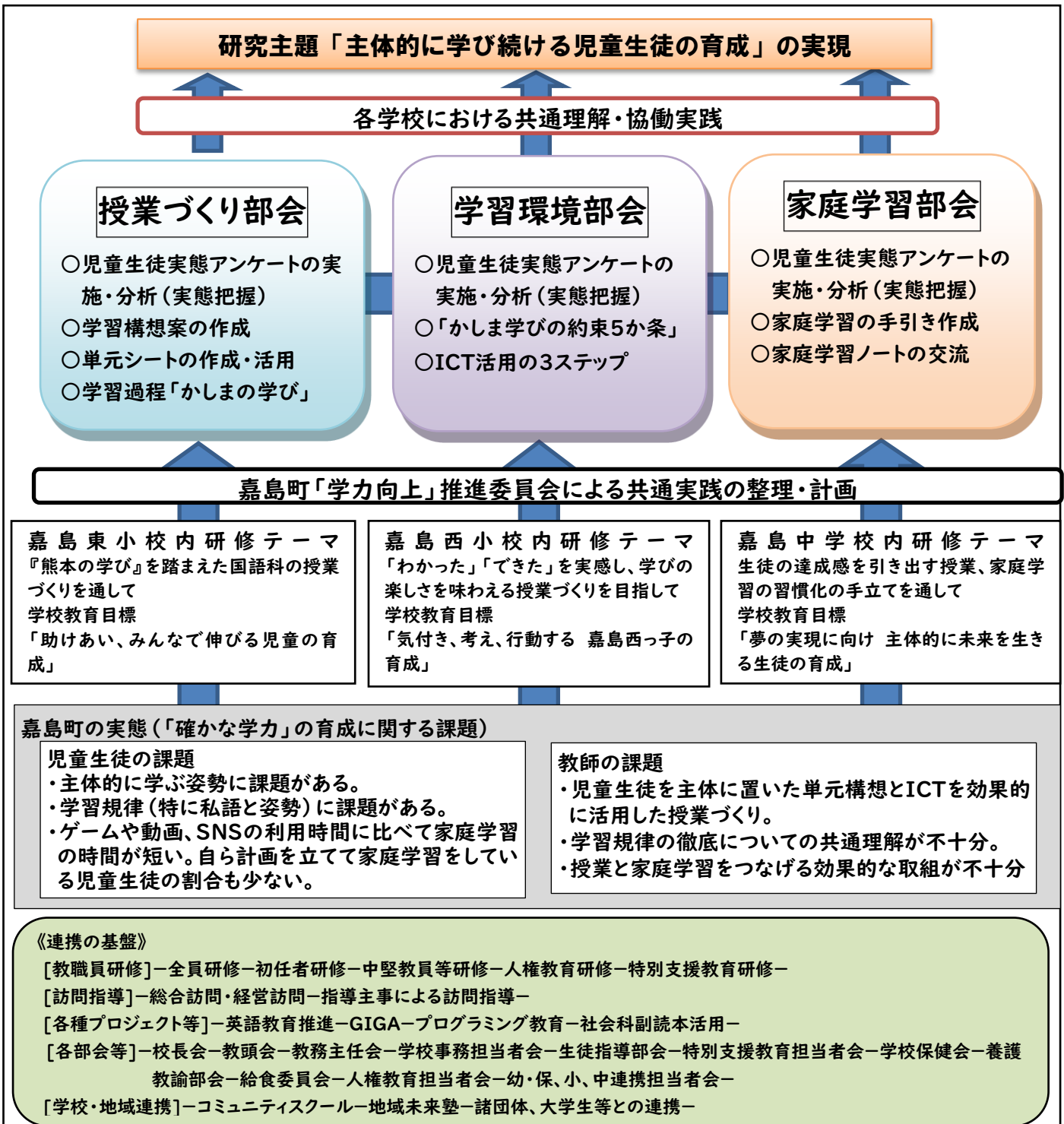


嘉島中学校区「学力向上」研究発表会

1 研究主題

「主体的に学び続ける児童生徒の育成」

2 学力向上校区連携イメージ



授業づくり部会の取組

単元シートの作成・活用


単元デザインを工夫し、単元のゴールに向けた学習過程や内容を、教師と児童生徒が共有しながら、学びの連続性を実感するとともに、児童生徒が見通しをもちながら主体的に学ぶ姿の実現につながっている。

植物が生命を維持するはたらきについて分かったことや疑問を記録しよう。

学習の足跡	家庭学習	検定
1. 月 日 植物はどのようにして栄養を得ているのだろうか..	読解書 p. 21-24 一問一答 (18)-(20)	
2. 月 日 光合成のしくみはどのようにになっているのだろうか..	読解書 p. 25-26 一問一答 (21)-(24)	
3. 月 日 蒸散は葉のどこで盛んに起こっているのだろうか..	読解書 p. 23-24 一問一答 (25)-(26)	基教プリント
4. 月 日 葉の表面はどのようなつくりになっているのだろうか..	読解書 p. 22-24 一問一答 (27)-(29)	
5. 月 日 葉の色と、葉のつき方に規則性があるのはなぜだろうか..	読解書 p. 23-24 一問一答 (30)-(32)	
6. 月 日 水の通り道はどのようなつくりになっているのだろうか..	読解書 p. 24, 25 一問一答 (33)-(36)	

⑩ 今回の学びを日常生活に生かそう!!

- 家にある観葉植物や花の元気がない...
- 家庭菜園をしているが、野菜がうまく育たない...
- 農業や植物に関する仕事に興味がある...



かしまの学び（「か」：課題をつかむ、「し」：しっかり考える、「ま」：まとめ・振り返る）

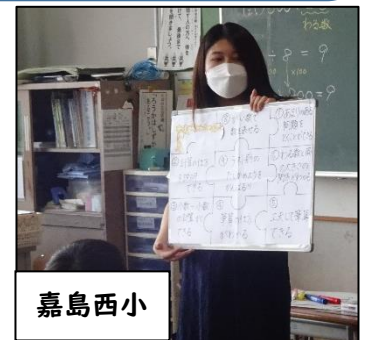
「か」では、「問い」を生み出す導入の工夫、「し」では、「対話」が生まれる発問や学習活動の工夫、「ま」では、児童生徒が「分かった」「できた」を実感できる振り返り工夫を小・中学校共通の研究の視点とし、授業づくりを行った。小・中学校が連携しながら研究を進めることで、「熊本の学び」の実現に向けた授業づくりを推進した。



嘉島東小



嘉島中



嘉島西小

意識調査 「『分かった』『できた』と感ずることがありますか。」の項目の肯定的評価の割合

教科	実施時期	東小	西小	中学校
国語	R4 7月	86%	84%	83%
算数・数学		91%	94%	75%
外国語		85%	87%	79%

成果と課題（○成果、▲課題）

- 意識調査「『分かった』『できた』と感ずることがありますか。」の項目で、肯定的 評価をした児童生徒の割合がおおむね80%を上回り、90%を超える教科が出てきた。
- 「単元シート」を作成し、活用したことで、児童生徒が1単位時間の学びの意味を感じたり、単元のゴールまでの見通しをもって学習を進めたりする姿が見られた。
- どの授業においても「めあて」と「まとめ」の板書を統一し、学習過程「かしまの学び」を板書や掲示物で示して活用したことで、児童生徒も教師も1単位時間の学習に見通しをもって進めることができた。
- 「振り返り」の視点を設定して、視点に沿って振り返りの記録を記入する活動を設定したことで、児童生徒が自分なりに学んだ成果を自覚している姿が見られた。
- ▲ 各教科の授業において、苦手意識をもっている児童生徒が各校に複数名いることから、単元デザインの工夫や個に応じた指導の手立ての工夫を今後も重ねていく必要がある。

学習環境部会の取組

主体的な学びの土台となる学習規律の徹底

- (1) 「かしま学びの約束 5 か条」を町内三校共通で実践
町内三校全ての学級・教科で実践し、主体的な学びの土台の形成を目指した。学年ごとの発達段階に合わせた内容で作成し、小6と中1は同様にすることで進学した時にギャップが生じないようにした。
- (2) 各校の実態に合わせた教師と児童の意識の向上を図る取組

「かしま学びの約束 5 か条」の内容

- ①授業前の準備について
- ②挨拶や返事について
- ③話の聞き方について
- ④発表について
- ⑤姿勢について



1年生	19日 (金)	22日 (月)	24日 (水)	25日 (木)	26日 (金)	合計
1-1	70	115	78	118	118	533
1-2	104	115	78	118	108	513
1-2	107	115	78	118	108	526

小学校…朝の会と帰りの会に「5 か条」の復唱したり、各学級で目標を1つ設定して教師と児童が共に意識しやすいように掲示をしたりして、その都度振り返りを行った。

中学校…授業ごとに各学級の授業態度を「5 か条」の項目をもとに評価し、結果を委員会がクラスマッチ形式で掲示した。

主体的な学びを引き出す ICT 活用

3 ステップを掲げ、足並みを揃えて段階的に実践

- ①教職員が ICT を活用できる(一斉学習)
 - 職員間の共有資料は Teams を活用したり、デジタル教科書と電子黒板を活用して授業を行ったりするなど、まずは職員が積極的に活用することで ICT に慣れた。
 - 随時、ICT 活用に関する校内研修を行い、ソフトウェア等の業者にも来ていただきながら、困り事を解消した。
- ②児童生徒が ICT を活用できる(個別学習)
 - 学習支援ソフト等の導入によって、児童生徒も自ら学習を選択して取り組めるようになった。
- ③主体的かつ協働的な学びに繋がる ICT の活用ができる(協働学習)
 - タブレット端末や電子黒板を活用した発表や提示により、より個々の考えを共有することができるようになった。

職員間で、ICT 活用の研修を行い、使い方を共有している様子



3年生が、ポートボールの試合を撮影して、反省会をしている様子



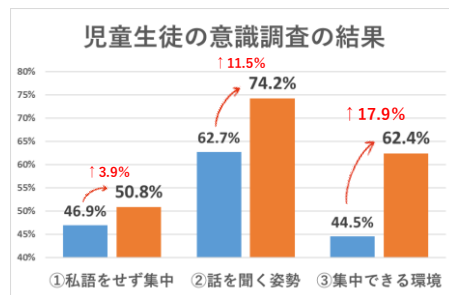
6年生の授業で、PowerPoint を使って発表をしている様子



町内三校の昨年度(6月)と今年度(7月)の児童生徒の意識調査の結果

【学習規律】(※肯定的評価を%で表示)

- ①「授業に関係のない話をせず授業に集中しようとしている」
- ②「話す人の方へ体を向けて最後まで話を聞こうとしている」
- ③「教室は授業に十分集中することができる場所だと思う」



成果と課題 (○成果、▲課題)

【学習規律】

- 全教職員が足並みを揃えて学習規律を指導したことで、児童生徒が課題を意識できるようになった。
- 「かしま学びの約束 5 か条」の取組によって 87.7%の教職員が児童生徒に示しやすくなったと回答しており、児童生徒においても①②の意識が向上している。その成果、③の「授業に集中できる」の割合の上昇にも繋がった。
- ▲学級ごとの「5 か条」にするなどして、児童生徒の主体性を大事にするように工夫する。

【ICT 活用】

- ICT の活用によって、個々の調べ学習や児童生徒の関心、課題に応じた学習に取り組みやすくなった。
- ▲どの学年でどこまで習得するのか、小学校から中学校までのスキルの階層化を明確にして共有する。
- ▲ステップ③の主体的かつ協働的な学びに繋げるために、職員間で効果的な活用方法を共有する。

家庭学習部会の取組

家庭学習の手引き作成

かしまちかていがかくしゅう てび
嘉島町家庭学習の手引き(がんばり計画表) [嘉島中学校・嘉島東小学校・嘉島西小学校]

☆学習計画☆ 【月火水木金土日】 【月火水木金土日】
 学習する時間(時分～時分) (時分～時分)
 学習する場所() ()

	小学校			中学校		
	低学年	中学年	高学年	1年	2年	3年
学習を始める前	まず、テレビを消そう!! ①つくえの上には学習用具だけ。 ②正しい姿勢で。 ③時間いっぱいがんばる。			帰りの会のときに、「学習開始時刻」や「学習内容」を自分で決めて、「生活の記録」の「学習開始時刻」や「学習内容」を確認して、必要な学習道具を準備する。		
学習時間	20分以上	40分以上	60分以上	90分以上		
学習のなみ(自主学習の例)	①宿題 ・漢字の練習。(おぼえるように読みがなも書く) ・計算練習。(まちがいをなおして) ・読書(本・教科書・新聞など)。 ・学校で学習したことをノートにまとめる。 ・気になったことを調べる。 ・明日の学習に役立つようにする。			②自主学習 【問題を解く】計算カードやワークの問題を自ノートに取り組み、○付けたら「おひら」。 【反復練習】漢字や英単語に取り組む。 【学習記録】家庭学習の生活記録をまとめる。 ※各教科の宿題に取り組み中で、自分が興味のある教科の学習や自分の課題を意識した教科の学習をする。		
学習後	○忘れ物がないように、次の日の準備をする。(時間割を見て、かくにんする) ○よて紙の平をとどめる。(けずったえんぴつ・筆・必要のないものは入れないなど) ○お家の入に学習したものを見せたり伝えたりする。			○家庭学習を通して、「生活が自ら計画を立て、家庭学習に取り組める力を身に付ける。」 ・家庭学習を「いつ、どの課題を、どれくらい取り組むのか、どのように取り組むのか」について自分で計画を立てて学習できるようにする。		



帰りの会などで、家庭学習をする順番を考えたり、学習内容を考えたりして計画的を立てる時間の確保を行った。



手引きを基に子どもたちが家庭学習の説明をする動画を作成した。子どもたちのアイデアを生かした低学年にも分かりやすい内容となった。

学習の手順を「学習前」・「学習中」・「学習後」に分けて示し、段階的に学習を進められるようにした。また、自分で学習の計画を立てる際の参考となる自主学習の例を示した。

家庭学習ノートの交流



それぞれのノートのよさを吹き出しで紹介している。



中学校の家庭学習ノートを見ている6年生。「学びのつながり」を意識させることで、家庭学習のレベルアップを目指している。



家庭学習ノートを教室にも掲示し、互いの学びを共有できるようにしている。

成果と課題 (○成果、▲課題)

○「家で学習するときは自分で計画を立てていますか」(※肯定的回答(「いつも立てている」+「どちらかといえば立てている」)をした児童が大きく増加した。(R3.6月【小学校】54.1%【中学校】45.9%⇒R4.7月【小学校】75.1%:21ポイントアップ↑【中学校】68.6%:22.7ポイントアップ↑)

○特に低学年では、「家庭学習の習慣を身に付けさせる」という観点から帰りの会等で時間を設けて学習計画を立てさせることには大きな意義があった。

○家庭学習の手引きの動画視聴により、手引きを「見える化」することができた。

▲家庭学習ノートの交流から学習内容の向上的な変容につながりまでには至っていない。

▲学習時間の設定も大切だが、習い事などの状況を考慮し、自分で家庭学習の量を決め、学習を調整する力を身に付けさせることも重要である。

▲保護者への家庭学習の手引きの周知に努め、学校と家庭の連携を更に深めた取組にしていきたい。

